

# 社 会

(歷史的分野)

#### (4) 社会（歴史的分野）

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせながら、課題を追究したり解決したりする学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを多面的・多角的に考察したことや、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりするなど、言語活動に関わる学習のための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、学校図書館や地域の公共施設、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、主体的に調べ分かつようとして学習に取り組む工夫 (4) 学習したことを振り返ったり、新たな問いを見いだしたりすることや、学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることができるような工夫 (5) 博物館や郷土資料館などの施設を見学・調査するなど身近な地域の歴史などにおいて、具体的に学ぶための工夫 (6) 生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日の課題への配慮や工夫

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史をとらえる見方・考え方」で、5つの歴史的な見方・考え方を取り上げ、「みんなでチャレンジ」の活動を通して、身につけられるよう工夫されている。〔例〕(P10～15)</li> <li>・単元全体を貫く問い「探究課題」、節ごとの問い「探究のステップ」、1単位時間の学習のめあて「学習課題」の3段階の問いが示されており、歴史的な見方・考え方を働かせる場面を設けて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習となるよう工夫されている。〔例〕(P23～26等)</li> </ul> <p>●着眼点(2)について</p> <p>「みんなでチャレンジ」のコーナーを設け、対話的な学習活動を促したり、単元(章)の終末部分に「まとめの活動」を設け、思考ツールを使って学習内容を整理したりするなど、言語活動に関わる学習となるよう工夫されている。〔例〕(P42、P60～63等)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>「導入→展開→まとめ」という学習の流れの中で活用でき、日々の授業や家庭学習で役立つコンテンツデジタルコンテンツにアクセスできるよう二次元コードが配置されている。〔例〕(P22～63)</p> <p>●着眼点(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1単位時間ごとに、「チェック」と「トライ」が付され、学習したことを振り返り、より学びが深められるよう工夫されている。〔例〕(P24～25等)</li> <li>・「持続可能な社会の実現に向けて」では、自分たちの未来を考えるために歴史が必要であり、未来を生きる人々につなげるために歴史を学ぶことが紹介されている。〔例〕(P2～3)</li> </ul>	<p>●着眼点(5)について</p> <p>「地域の歴史を調べよう」では、身近な地域の歴史を調べる学習の事例が時代ごとに設けられるとともに、調べ方やまとめ方についても例示され、具体的に学べるよう工夫されている。〔例〕(P40～41等)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>学習した内容に関連した「もっと知りたい!」のページを設け、さらに学習内容を深めたり、広げたり、異なる視点で捉えたりして、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促すことができるよう工夫されている。〔例〕(P120～121等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科の学習と関連が強い箇所にはリンクマークが付され、「Dマーク」が付されている箇所は、該当教科の教科書の紙面がウェブサイト上で見られるよう工夫されている。〔例〕(P29等)</li> <li>・第1章の冒頭では小学校で学んだ人物、文化財、出来事がイラストで示されており、既習の事項とつながりがもてるよう工夫されている。〔例〕(P8～9)</li> </ul>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 第1章の「歴史にアプローチ」では、歴史的な見方・考え方を学ぶとともに、章の冒頭に章全体にかかる問いを示したり、「〇〇を読み解こう」や「THINK！」のコーナーで、生徒が考察できるような問いを設けたりして、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。 〔例〕 (P8～11、P61、P68、P109等)</p> <p>●着眼点(2)について ・見開き2ページの終末部分に、「表現！」のマークがあり、学習してきたことを活用して表現できるよう工夫されている。 〔例〕 (P51等) ・各章末に「学習のまとめと表現」が設けられ、「STEP!①」で、生徒が学んだことをもとに説明する活動が示されている。〔例〕 (P56～57等)</p> <p>●着眼点(3)について 学習に役立つ様々な情報が得られるよう、各章の扉ページ等にデジタルコンテンツ「まなびリンク」にアクセスできる二次元コードが配置されている。〔例〕 (P95、P101)</p> <p>●着眼点(4)について ・見開き2ページの終末部分に、「確認！」のマークがあり、この時間で学習したことを振り返り、基礎的事項の確認・整理ができるよう工夫されている。 〔例〕 (P135等) ・「歴史学習の終わりに」では、学習した内容を生かして、現代社会の課題について問いを立てて調査・考察するなどの活動が紹介されている。 〔例〕 (P287～291)</p>	<p>●着眼点(5)について ・「身近な地域の歴史を調べよう」では、見通しをもって調査に取り組むことができるよう工夫されるとともに世界遺産、国宝、重要文化財にはマークが付され、伝統・文化への関心を高める工夫がされている。 〔例〕 (P12～19等)</p> <p>●着眼点(6)について ・各章の「学習のはじめに」では、章の学習内容がイメージできる資料を中心に構成されており、生徒が興味・関心や見通しをもって取り組むことができるよう工夫されるとともに、「歴史を探ろう」を設け、個人やグループで学習を深めることができるよう工夫されている。 〔例〕 (P88～89、P252～253等)</p> <p>●着眼点(7)について ・「歴史ゲームで遊ぼう」では、小学校での学習について、ゲームを楽しみながら振り返る活動が紹介されている。 〔例〕 (P4～7) ・学習内容と関わりのある他分野の学習内容を示して、接続・連携を図る工夫がされている。 〔例〕 (P200～201等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
46 帝国	<p>●着眼点(1)について</p> <p>・「歴史的な見方・考え方」のページを設け、歴史的な見方・考え方を示すとともに、「見方・考え方」のマークを付し、課題解決に必要な思考力を深めることができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕(巻頭P8、P34等)</p> <p>・「アクティブ歴史」では、具体的なテーマを設定した活動型の学習が示され、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学びとなるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕(P76～77等)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>「説明しよう」コーナーが設定され、学習した内容を説明できるようにしたり、章の最後の「学習を振り返ろう」で、章の問いをグループで話し合ったりするなど、言語活動に関わる学習となるよう工夫されている。〔例〕(P59、P62等)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>「思考ツール・白地図」等、学習を深めるためのデジタルコンテンツにアクセスできるよう、「タイムトラベル」や「アクティブ歴史」のページに二次元コードが配置されている。</p> <p>〔例〕(P64、P76等)</p> <p>●着眼点(4)について</p> <p>・「確認しよう」コーナーが設定され、生徒が学習の振り返りを行えるようにするとともに、章の最後でも振り返りを行えるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕(P101～104等)</p> <p>・コラム「未来に向けて」で、持続可能な社会の形成の事例を示し、生徒がSDGsの達成に向けて主体的に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕(P139等)</p>	<p>●着眼点(5)について</p> <p>「歴史の舞台を訪ねよう」では、教科書に出てくる歴史の舞台を地図と写真で示したり、博物館での学習活動の様子を紹介したりと、見学・調査を通して、身近な地域の歴史を具体的に学ぶことができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕(折込P7～8)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>歴史的な見方・考え方を働かせるうえで必要な技能を身につけるコラム「技能をみがく」のコーナーを設け、歴史への興味・関心をもちながら自主的・自発的に学べるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕(P35等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <p>・「歴史をたどろう」では、小学校で学んだ出来事や人物が並べられており、小学校社会科との連携を図った学習活動が充実するよう工夫されている。〔例〕(P2～3)</p> <p>・小学校での学習や他分野・他教科と関連のある題材に「小学校・地理・公民・他教科の関連」など、マークが付され、歴史的な事象を多面的・多角的に捉えられるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕(P162～163等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
81 山川	<p>●着眼点(1)について 課題や発問例が設定されており、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、社会的事象をとらえることができるよう工夫されるとともに、「ステップアップ」では、学習したテーマをさらに深める課題を示すことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習となるよう工夫されている。 〔例〕(P82～83等)</p> <p>●着眼点(2)について ・章末には「まとめ」が設定され、学習したことをもとに文章で記述するよう工夫されている。〔例〕(P60～61等) ・章ごとに「歴史を考えよう」が設けられ、取り上げた課題を話し合い考察できるように学習活動が設定されており、歴史について自分で考えたり、対話したりする言語活動に関わる学習となるよう工夫されている。 〔例〕(P76～77等)</p> <p>●着眼点(3)について 博物館・資料館のウェブページや動画・拡大画像を見ることができ、学習を深める情報が得られるデジタルコンテンツにアクセスできるよう二次元コードが配置されている。〔例〕(P47等)</p> <p>●着眼点(4)について ・「ステップアップ」では、身の周りの生活や身近な地域と、歴史との関連を気づかせる発問が設定されている。 〔例〕(P19、P21、P161等) ・現代の日本と世界における「まとめ」では、これからの社会について、解決すべき課題とその解決策について考えられるよう工夫されている。 〔例〕(P283)</p>	<p>●着眼点(5)について 「身近な地域を調べよう」では、地域学習の方法について、レポートの書き方や発表の仕方を提示し、紹介するとともに、「地域からのアプローチ」では、7つの地域を取り上げ、地域を通しての歴史学習を紹介するなど、地域の歴史を具体的に学ぶ工夫が図られている。 〔例〕(P8～13、P58～59等)</p> <p>●着眼点(6)について 写真やグラフ、文献などにも考える視点を付し、生徒が自主的・自発的に学べるよう工夫されている。 〔例〕(P188～189等)</p> <p>●着眼点(7)について ・小学校の学習指導要領に取り上げられている人物を第1章1節で取り上げ、円滑に中学校での学習を始めることができるよう工夫されている。〔例〕(P7) ・また、各時代の世界の状況を通観し視覚的に理解できるように、地図とイラストで紹介するページが設けられており、地理的分野との連携が図られている。 〔例〕(P48～49等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について 第1編「歴史的な見方・考え方」では、時系列・推移・比較・つながりの4つの視点や方法が示されている。また、どのような視点や方法に着目して学習するかを明らかにするため、「学習課題」「見方・考え方」を付し、課題を追究したり解決したりする学習活動など、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫がされている。 〔例〕(P10～11、P22～23等)</p> <p>●着眼点(2)について ・「確認」「表現」コーナーでは、学習したことを振りかえったり文章で説明したりすることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着できるよう工夫されている。〔例〕(P37等) ・「チャレンジ歴史」では、歴史について自分で考えたり、対話したりする言語活動に関わる学習のための工夫がされている。〔例〕(P38～39等)</p> <p>●着眼点(3)について 「イントロダクションムービー」「確認小テスト」「ポートフォリオ」などが利用できるデジタルコンテンツにアクセスできるよう二次元コードが配置されている。 〔例〕(P22等)</p> <p>●着眼点(4)について ・各編終末の「まとめとふり返し」では、問いが設定されており、解決することで、時代の特色をとらえる活動ができるよう工夫されている。 ・「『歴史との対話』を未来に活かす」では、現代の諸課題を振り返り、災害、政治参加、世界平和について考える課題学習が設定されている。 〔例〕(P290～291、P292～299等)</p>	<p>●着眼点(5)について 「地域に学ぶ」では、身近な地域から歴史を学ぶことができる事例を紹介したり、「でかけよう地域調べ」では、地域の歴史の調べ方・学び方を紹介したりして、歴史を具体的に学ぶことができるよう工夫されている。〔例〕(P84、P100等)</p> <p>●着眼点(6)について 歴史学習を進めるにあたって必要な技能を示す「スキルUP」のコーナーを設けており、生徒が自主的・自発的に学べるよう工夫されている。 〔例〕(P60等)</p> <p>●着眼点(7)について ・本文ページの右下に、小学校社会科や地理・公民とのつながりを示し、小学校社会科や他分野との関連を図った学習活動を充実するよう工夫されている。 ・各編終末の「まとめとふり返し」では、地理的分野とも連携を図り、年表と地図を使って学習の振り返りができるよう工夫されている。 〔例〕(P207、P265、P290等)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
225 自由社	<p>●着眼点(1)について 「歴史のとらえ方」では、歴史的な見方・考え方が示されるとともに、各章の導入ページで示される問い、学習課題、章末での振り返りの流れで、課題を追究したり解決したりする学習活動が示されている。 〔例〕(P7～11、P19～20、P66～68等)</p> <p>●着眼点(2)について ・「チャレンジ」のコーナーが設けられており、学んだことを説明したり、表にまとめたりする活動例が示されている。 〔例〕(P55、P57等) ・また、章末の「時代の特徴を考えるページ」では、学んだ時代について「ひとことと言うと〇〇の時代だった」といった作文形式でまとめる活動が示されており、言語活動に関わる学習のための工夫がされている。〔例〕(P67等)</p> <p>●着眼点(3)について 「調べ学習のページ」では、図書館や博物館で調べる方法が示されており、主体的に調べ分かつようとして学習に取り組む工夫がされている。〔例〕(P65等)</p> <p>●着眼点(4)について ・コラム「もっと知りたい」では、さらに深い学びを促すとともに、学習した内容の振り返ることができるよう工夫されている。〔例〕(P76～77等) ・現代のまとめのページでは、民族紛争やテロ等の課題が世界でおこっていることにふれ、問題に直面した時に歴史に解決のヒントを求める姿勢の育成につながるよう工夫されている。 〔例〕(P287)</p>	<p>●着眼点(5)について 「地域の歴史を調べる」では、堺市が例に挙げられており、古代から近代までの地域の歴史を紹介し、生徒が地域の歴史を具体的に学ぶための方法が示されている。〔例〕(P12～15)</p> <p>●着眼点(6)について 「歩いてみよう！江戸の町」では、資料館に行ったり、古地図を見ながら町を歩いてみたりする活動を紹介します、歴史学習への興味、関心、意欲が高まるよう工夫されている。〔例〕(P144～145)</p> <p>●着眼点(7)について ・「人物を通して時代をとらえる」では、小学校で学習した歴史上の人物42人を示し、小学校社会科の学習を振り返りながら学習を始められるよう、小学校と中学校の学習の連携が図られている。 〔例〕(P16～18) ・「日本歴史の舞台」では、日本を異なる高度から眺めた際のそれぞれの違いを、地形、土地利用、産業の観点からまとめており、地理的分野との関連を図るための工夫がされている。 〔例〕(P2～3)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
227 育鵬社	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各章の導入ページには、鳥と虫のマークが付され、時代の大きな流れを捉えたり、その時代を象徴する資料から問いをもったりできるよう工夫されている。〔例〕(P96～99等)</li> <li>「歴史ズームイン」では、学習した内容を深めたり、別の視点をもたせるための資料を紹介したりして、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。〔例〕(P141等)</li> </ul> <p>●着眼点(2)について</p> <p>「確認」「探究」のコーナーが設けられており、表現活動を促す中で学習課題をとらえることができたか確認できるようになっていたり、「TRY!」のコーナーでは、課題について学んだことをもとにグループで話し合ったり調べたりして取り組む活動を示し、言語活動に関わる学習になるよう工夫されている。〔例〕(P29、P44～45等)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>関連するウェブサイトや動画を見ることができるデジタルコンテンツにアクセスできるよう、二次元コードが各章の冒頭ページに配置されている。〔例〕(P25等)</p> <p>●着眼点(4)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各章の最後には「学習のまとめ」が配置され、学習した内容を振り返り、その時代の歴史や日本の歴史を概観しながらまとめることができるよう工夫されている。〔例〕(P144～145等)</li> <li>「人物クローズアップ」では、主体的に社会の課題を追究、解決し、その発展に寄与した先人の取組が資料やコラムで紹介されている。〔例〕(P193等)</li> </ul>	<p>●着眼点(5)について</p> <p>「地域の歴史を調べてみよう」では、大阪と横浜が例に挙げられている。その中で、調査の仕方やまとめ方についても例示され、地域の歴史を具体的に学ぶことができるよう工夫されている。〔例〕(P20～21、P150～151)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>「歴史ビュー」では、和歌の伝統が現代に引き継がれていることを紹介したり、「歴史新聞を作ろう」では、出来事や人物、文化遺産について調べまとめる活動を紹介したりして、歴史を身近に感じるよう工夫されている。〔例〕(P53、P280～281等)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>序章では、小学校で学習した歴史上の人物42人の似顔絵を活用し、生徒が小学校での社会科の学習を振り返りながら学習を始められるよう、小学校と中学校の学習の連携が図られている。〔例〕(P14～15)</li> <li>「地域の歴史を調べてみよう」では、難波宮が置かれていた場所の地形が昔と今で異なっていることに着目させており、地理的分野との関連を図ることができるよう工夫されている。〔例〕(P21)</li> </ul>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
229 学び舎	<p>●着眼点(1)について 1 単位時間が見開き 2 ページで構成されており、見開きの左上に大きな図版の配置、その下に学習内容のタイトル、学習課題を設置するなど、生徒が問いや疑問をもち、歴史の事象や課題について多面的・多角的に考え表現できるように工夫されている。 〔例〕 (P206、P222 等)</p> <p>●着眼点(2)について 各部の最初に、学習課題を設け、疑問を出し合いながら学ぶような工夫や、章の最後には、各時代の特色を多面的・多角的に考察して自分の言葉で表現できるような言語活動に関わる学習になるよう工夫されている。〔例〕 (P11、P34 等)</p> <p>●着眼点(3)について 章の最後に「歴史を体験する」を設け、インターネットを利用した調べ学習の例が示されている。 〔例〕 「インターネットで『洛中洛外図屏風』を見る」 (P105)、「山本宣治の人物調べ」 (P210)</p> <p>●着眼点(4)について ・章の最後には、地図や年表などを活用し、学習したことを振り返って基本的な知識の定着を図ることができるよう工夫されている。 ・グループ活動等を通じて、時代の特色等を振り返る表現活動が行えるよう工夫されている。 〔例〕 (P134～135 等)</p>	<p>●着眼点(5)について 「歴史への案内 4」では、地域の郷土博物館やそこで働く学芸員の紹介をしたり、地域の歴史の調べ方や効果的な発表の仕方を示したりするなど、具体的に歴史を学ぶことができるよう工夫されている。 〔例〕 (P132～133)</p> <p>●着眼点(6)について 「歴史への案内 1」では、沖縄の「慰霊の日」を紹介し、地域の歴史と接することを通して、自主的・自発的な学習になるよう工夫されている。 〔例〕 (P4～5)</p> <p>●着眼点(7)について ・巻末の年表には、「日本の社会・政治・経済の働き」という項が設けられ、歴史的事象を公民的分野とも関連づけられるよう工夫されている。 〔例〕 (P282～293)</p> <p>・また、各章の導入ページでは、北極を中心とした世界地図を描き、テーマに基づいたその時代の各地の様子を表す写真や絵を配置したり、本文ページでは地図と歴史的事象を関連づけることができるよう地図を適所に配置したりするなど、地理的分野との関連を図ることができるよう工夫されている。 〔例〕 (P36～37、P38～49 等)</p> <p>・冒頭の「歴史を楽しく学ぼう」では、小学校で学習した人物や文化遺産についてカードにまとめる学習が示されており、小学校の学びとの関連を図ることができるよう工夫されている。〔例〕 (P6～7)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
236 令書	<p>●着眼点(1)について</p> <p>・「国史を学ぶにあたって」では、「テーマを決める、疑問を持つ、調べる、まとめる、発表する、振り返る」の順序で、身近なものや興味のあるものの歴史を調べる方法が示され、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 (P14～15)</p> <p>・「歴史的な見方・考え方」では、5つの視点の説明がされており、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。〔例〕 (P15～16)</p> <p>●着眼点(2)について</p> <p>・章末に、学習したことをもとに時代ごとの特色をまとめ、発表する活動が示されている。また、「新聞にまとめてみよう」では、構成や配置など、効果的に伝えるための工夫について説明されている。</p> <p>〔例〕 (P179、P263)</p> <p>●着眼点(3)について</p> <p>「展覧会に行こう」では、身近な地域の展覧会に実際に行き説明員に話を聞くことの大切さや、レポートのまとめ方が示されている。〔例〕 (P261)</p> <p>●着眼点(4)について</p> <p>各まとまりに「考えよう」が設定されており、学習したことをもとに別の課題を考えることができるよう、新しい視点が示されている。〔例〕 (P138等)</p>	<p>●着眼点(5)について</p> <p>「身近な歴史を年表にまとめよう」では、身近にある神社仏閣や石碑、銅像を調査する目的や方法が示されているとともに、今を生きる自分たちとの関わりについてまとめることが示されている。</p> <p>〔例〕 (P176)</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>「市町村歌を調べてみよう」では、多くの自治体が独自の歌をもち、市町村歌にはその土地の文化や風土が反映されていることが説明されており、市町村歌を調べることを通じて生徒の自主的・自発的な学習になるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 (P402)</p> <p>●着眼点(7)について</p> <p>・「国史を学ぶにあたって」では、小学校で学んだ人物と文化についてカードにまとめる学習が示されている。</p> <p>〔例〕 (P10)</p> <p>・章末の年表には、「政治」「経済・社会・文化」「世界」の欄が設けられており、歴史的分野を公民的分野と関連付けられるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕 (P265等)</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称	総 ペー ジ	(1)内容別配当の分量							(2)教材・資料等の分量										
		A歴史との 対話		B近世までの 日本とアジア			C近現代の 日本と世界		文 献	図 版・ 写 真	地 図	統 計 資 料	年 表	読 み 物 資 料	注 釈・ 用 語 解 説	表 現 活 動 例	見 方・ 考 え 方 の 例 示	二 次 元 コ ー ド に 類 す る も の	三 重 県 に 関 わ る 記 述 等
		(1) 私 た ち と 歴 史	(2) 身 近 な 地 域 の 歴 史	(1) 古 代 ま で の 日 本	(2) 中 世 の 日 本	(3) 近 世 の 日 本	(1) 近 代 の 日 本 と 世 界	(2) 現 代 の 日 本 と 世 界											
2 東書	300	7	6	42	34	46	100	32	98	807	99	45	15	99	250	125	138	134	○
17 教出	310	10	7	40	36	48	108	35	65	812	108	46	15	44	189	126	74	23	○
46 帝国	332	13	6	48	42	56	114	32	95	846	124	51	27	154	159	105	148	58	○
81 山川	294	3	6	48	40	52	100	30	69	863	127	61	14	103	183	97	207	29	○
116 日文	324	6	6	46	40	50	104	42	89	875	144	58	94	65	187	111	166	163	○
225 自由社	312	5	4	50	36	43	105	33	71	615	99	18	31	143	177	40	74	0	○
227 育鵬社	306	16	6	40	32	50	98	41	41	727	112	52	17	33	177	137	106	7	○
229 学び舎	305	6	2	44	32	48	110	35	68	824	110	25	18	120	167	29	11	0	○
236 令書	520	6	5	102	61	86	140	49	87	271	62	12	22	43	365	11	82	1	○

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫 等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過度な重量にならないように、ページ数を抑え、裏写りせず、強度の高い再生紙が使われている。また、植物油インキが使われており、環境に配慮されている。</li> <li>・ユニバーサルデザインフォントや、色覚特性がある生徒にも見分けやすい色が使われている。また、文字に縁取りをしたり、凡例を使用しないで図中に直接示すようにしたり、グラフでは読み取りづらい破線や点線を減らしている。</li> <li>・紙面の要素を定位置に配置することで、学習の流れが見やすく、すべての生徒にとって学習に取り組みやすいよう工夫されている。</li> </ul>
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丈夫で軽量の再生紙が使われている。また、植物油インキが使われており、環境に配慮されている。</li> <li>・カラーユニバーサルデザインに基づく配色であり、紙面、デジタル画面ともユニバーサルデザイン・フォントが使われている。</li> <li>・見開きで1時間の授業を原則にして、見開き単位で資料に通し番号を示すことで、資料と本文との関係を理解しやすくなるように工夫されている。キャラクターのイラストは、性差や障害の有無に関わらず学習に取り組む様子が描写されている。</li> </ul>
46 帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽くて丈夫な再生紙で、写真や図版が鮮明に印刷されている。また、国産米の米ぬかからつくられるインキが使われており、環境に配慮されている。</li> <li>・ユニバーサルデザインフォントや色覚特性に配慮した識別しやすい色の使用、図版と本文を区別しやすい工夫など、インクルージブ教育に配慮した編集が行われている。</li> <li>・見開きで1時間の授業を原則とし、適切な分量で学習計画を立てやすいよう工夫されている。また、男女のイラストで役割を限定しないなど、ジェンダーの固定観念を持たないように配慮されている。</li> </ul>
81 山川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ページ数を抑えるとともに、再生紙と植物油インキを使用し、環境に配慮されている。</li> <li>・ユニバーサルフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインを取り入れることで、多くの人に見やすい教科書となるよう工夫されている。</li> <li>・本文ページ等のテーマカラーが、日本史と世界史で区別されており、学習している内容が日本のことか世界のことを把握できるよう工夫されている。</li> </ul>
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な強度をもち、軽くて裏写りが少ない再生紙を使用して、教科書の軽量化が図られている。また、植物油インキが使われており、環境への配慮もとられている。</li> <li>・特別支援教育やカラーユニバーサルデザインの観点から、グラフなどの情報が読み取りやすいよう工夫されている。また、だれにでも見やすく読みやすいユニバーサルデザインフォントが使われている。</li> <li>・「編(章)の問い」や「節の問い」が構造的に設定され、その解答を行うコーナーやページを設けてられおり、生徒が何をどのように学ぶのかわき見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。</li> </ul>
225 自由社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1見開き1時間での授業が行いやすいように、本文と、本文を補足する多くの教材が配置されている。</li> <li>・欄外に「モノサシ年表」が置かれ、単元で学ぶことが「モノサシ年表」のどこに位置するかを確認することができるよう工夫されている。</li> <li>・単元の末尾には「チャレンジ」という記事が配置され、単元ごとの簡単な知識が整理できるよう工夫されている。</li> </ul>

227 育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生紙、植物油インキが使用されており、環境に配慮されている。</li> <li>・ユニバーサルデザインフォントや、ふりがなには読み取りやすいゴシック体を用い、文字の視認性を高めるよう工夫されている。また、資料は、色覚特性のある生徒でも識別しやすい色や、色以外の情報からも読み取れるよう工夫されている。</li> <li>・1授業時間の内容が見開き2ページにまとめられ、生徒が学習内容を把握しやすいよう工夫されている。</li> </ul>
229 学び舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堅牢さがあるPUR製本が行われ、環境に配慮した再生紙、植物油インクが使われている。</li> <li>・歴史地図・グラフにカラーユニバーサルデザインが使われている。また、色覚特性の個人差に配慮して、すべての地図・グラフが読み取りやすいよう工夫されている。</li> <li>・見開き2ページの左上に大きな図版が配置されており、観察してさまざまな発見や疑問が出るよう工夫されている。また、多様な資料が大きく鮮明な画像で掲載されており、読み取って活用できるよう工夫されている。</li> </ul>
236 令書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦書きや「いろは順」の小見出しにするなどして、生徒が日本の伝統を感じられるよう工夫されている。</li> <li>・右綴じで製本され、大きさが比較的小さく、本文は縦書きであることから、読書する楽しみを提示しようと試みられている。</li> <li>・土偶や土器、銅鐸等がそれぞれ1ページを使ってカラーで印刷されており、細かい模様まで確認できるよう工夫されている。</li> </ul>

3 その他

	・今日的な課題への配慮や工夫
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「もっと知りたい」のコーナーや本文に、部落差別問題や、アイヌの人々、琉球王国、在日韓国・朝鮮人の歴史に関する記述があり、人権尊重・多文化共生の意識が高められるよう工夫されている。〔例〕(P93、P118～121、P218～219、P247、P265等)</li> <li>・領土をめぐる問題について、「6 領有の歴史的な経緯 領土をめぐる問題の背景」(P176～177)と題した読み物資料を掲載して、竹島、北方領土、尖閣諸島について学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・三重県についての主な記述等では、「現代に生きる神話」で伊勢神宮の内宮の写真(P59)、「宿場の町並み」で亀山市の関宿の江戸時代の絵と現在の写真(P127)、本文中で本居宣長に関する記述・紹介(P134)、本文中で伊勢参りの記述(P135)、部落解放運動の始まりで三重県を事例にした記述(P218)、本文中における四日市ぜんそくの記述(P257)と写真「大気汚染対策としてマスクをして通学する子どもたち」が記載されている。</li> </ul>
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史の窓」のコーナーや本文で、部落差別問題や、アイヌの人々、琉球王国、在日韓国・朝鮮人の歴史を扱い、人権尊重・多文化共生の意識が高められるよう工夫されている。〔例〕(P80～81、P87、P255、P281等)</li> <li>・領土をめぐる問題について、「歴史を探ろう 隣国と向き合うために 日本の領土をめぐる課題」(P266～267)と題した読み物資料を掲載して、北方領土、竹島、尖閣諸島について学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・三重県についての主な記述等では、本文中に本居宣長の記述(P136)、江戸時代末における伊勢神宮の「おかげ参り」の記述(P162)と図版「地租改正の反対一揆」(P169)、四日市ぜんそくの記述と写真「工場に囲まれた学校の校庭で遊ぶ子どもたち」(P269)が記載されている。</li> </ul>
46 帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来に向けて」のコーナーで、部落差別問題、男女平等、在日韓国・朝鮮人、アイヌの人々のコラムが紹介されており、人権尊重・多文化共生の意識が高められるよう工夫されている。〔例〕(P101、P233、P285、P293等)</li> <li>・領土をめぐる問題について、「歴史を探ろう 日本の領土画定と近隣諸国 ～日本の領土画定と領有の経緯～」(P286～287)と題した読み物資料を掲載して、北方領土、竹島、尖閣諸島について学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・三重県についての主な記述等では、「伊勢参り」についての記述とともに、歌川(安藤)広重作「伊勢神宮 宮川の渡し」(P150)を掲載。本文中で本居宣長に関する記述(P152)、本文中における四日市ぜんそくの記述と写真「小学校の校庭で遊ぶ子どもたち」(P291)が記載されている。</li> </ul>
81 山川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史へのアプローチ」のページや本文に、琉球やアイヌの歴史・文化、男女平等、部落差別問題に関する記述があり、人権尊重・多文化共生の意識が高められるよう工夫されている。〔例〕(P88～91、P185、P227等)</li> <li>・領土をめぐる問題について、「歴史へのアプローチ10 日本の領土の変遷」(P268～269)と題した読み物資料を掲載して、北方領土、竹島、尖閣諸島について学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・三重県についての主な記述等として、伊勢神宮の宇治・山田の本文記述(P93)、写真「朝鮮通信使をまねた踊り(三重県の唐人踊り)」(P127)、大黒屋光太夫の人物紹介(P141)、伊勢参りに関する記述(P143)、図版「ええじゃないか」と記述(P171)、図版「日本の主な公害と四大公害訴訟」における四日市ぜんそく(P271)が記載されている。</li> </ul>
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文や「歴史を掘り下げる」のページ、「各時代の女性」のコーナーに、琉球やアイヌの歴史、部落差別問題、在日韓国・朝鮮人、性的少数者、男女平等に関する記述があり、人権尊重・多文化共生の意識が高められるよう工夫されている。〔例〕(P186～187、P234～235、P264、P275等)</li> <li>・領土をめぐる問題について、「歴史を掘り下げる 冷戦後の近隣諸国との関係」(P286～287)と題した読み物資料を掲載して、北方領土、竹島、尖閣諸島について学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・三重県についての主な記述等では、写真「勝手神社の神事踊り」(P98)、図版「江戸の商人」で伊勢から出た三井家、図版「おかげ参り」(P141)、国学(P147)のコーナーで本居宣長と『古事記伝』等、図版「歌川広重の風景画(東海道五十三次四日市)」、図版「主な藩校(桑名 立教館)」(P149)、図版「地租改正反対一揆」(P179)、写真「石油化学コンビナート」(P276)、四大公害の注釈として四日市ぜんそくと写真「コンビナートの煤煙でマスクをつけて通学する子ども」(P277)などが記載されている。</li> </ul>
225 自由社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラム「もっと知りたい」や本文に、琉球、アイヌの人々、身分制、部落差別問題に関する記述があり、人権尊重・多文化共生の意識が高められるよう工夫されている。〔例〕(P126、P174～175、P219等)</li> <li>・領土をめぐる問題について、「尖閣諸島と竹島の領土編入」(P173)と題した読み物資料を掲載するとともに、本文中のページに、「独立回復と領土問題」(P262～263)、「21世紀の日本の進路」(P278～279)と題して、北方領土、竹島、尖閣諸島について学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・三重県についての主な記述等では、図版「日本の世界文化遺産(紀伊山地の霊場と参詣道)」巻頭1、伊勢神宮に関する記述(P39)、写真「天照大神を祀る伊勢神宮の内宮正宮」図版「天の岩戸神話」(P38)、図版「神武東征伝承」(P39)、人物コラム「古事記をよみがえらせた本居宣長」(P134)、四日市ぜんそくの本文記述(P267)などが掲載されている。</li> </ul>
227 育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文や「歴史ビュー」に、部落差別問題、琉球やアイヌの歴史、男女平等、少数民族への弾圧に関する記述があり、人権尊重・多文化共生の意識が高められるよう工夫されている。〔例〕(P93、P118～119、P217、P269等)</li> <li>・領土をめぐる問題について、「歴史ズームイン 日本の領土をめぐる問題」(P256～257)と題した読み物資料を掲載するとともに、本文中のページに、「日本と近隣諸国の変化」(P268～269)と題して、北方領土、竹島、尖閣諸島について学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・三重県についての主な記述等では、「伝説の英雄が活躍する神話」で伊勢国の記述、写真「伊勢神宮」、図版「ヤマトタケルノミコトが東征したと伝えられるルート」(P55)、日本人漂流民の注釈で大黒屋光太夫の記述(P134)、四日市ぜんそくの記述と図版「東海道五十三次庄野」歌川(安藤)広重(P139)、図版「四大公害訴訟の発生地と原因など」と写真「大気汚染対策としてマスクを着けて下校する小学生」(P261)が記載されている。</li> </ul>

<p>229 学び舎</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文に、アイヌの人々や琉球、男女平等、部落差別問題、戦時下の人権侵害に関する記述があり、人権尊重・多文化共生の意識を高められるよう工夫されている。〔例〕(P114～115、P170、P206-207等)</li> <li>・領土をめぐる問題について、本文中のページの枠外に、「尖閣諸島の領有」(P185)、「竹島の領有」(P189)、「北方領土問題」(P257)と題した歴史的事象の説明分が掲載され、北方領土、竹島、尖閣諸島について学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・三重県についての主な記述等では、「伝説の英雄が活躍する神話」で伊勢国の記述、写真「伊勢神宮」、図版「ヤマトタケルノミコトが東征したと伝えられるルート」(P55)、日本人漂流民の注釈で大黒屋光太夫の記述(P134)、四日市ぜんそくの記述と図版「東海道五十三次庄野」歌川(安藤)広重(P139)、図版「四大公害訴訟の発生地と原因など」と写真「大気汚染対策としてマスクを着けて下校する小学生」(P261)が掲載されている。</li> </ul>
<p>236 令書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の中に、男女平等、アイヌの人々や琉球、身分制、部落差別問題に関する記述があり、人権尊重・多文化共生の意識を高められるよう工夫されている。〔例〕(P129、P160～161、P235、P341等)</li> <li>・領土をめぐる問題について、本文中のページに、「領土画定と朝鮮政策」(P299～304)、「冷戦と朝鮮戦争」(P421～423)、「緊張する東アジア情勢」(P440～443)と題して、北方領土、竹島、尖閣諸島について学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>・三重県についての主な記述等では、港町として発展した町として津(P67)、読み物資料「国学を大成させた本居宣長」(P125)、フォーカス「ラクスマンと大黒屋光太夫」と、図版「ロシア使節一行と大黒屋光太夫」(P128)、読み物資料「地租改正反対一揆(竹槍で突き出す)」(P169)、図版「松浦武四郎がつくった蝦夷地の地図」(P176)、図版「四大公害裁判」における四日市ぜんそく(P263)が記載されている。</li> </ul>